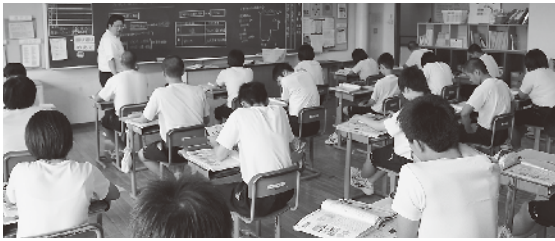


笑顔と元気で学び合い ⑩

はじめに

今年度は新しく設置された総合教育会議のもとで「教育大綱」が決まるなど、より充実した学校教育をめざす一年になりました。また、「新・かねやま子育て応援プラン」も始まり、幼児教育、家庭教育とのつながりも明らかになってきました。

園小中高を貫く適時適育



金山町の教育は、子どもの成長発達にふさわしい自立を促す「新適時適育」を理念にしています。こども園と小学校との連携が本格化し、友達との関わりで苦戦する子どもが増えている中で、こども園で積

み重ねてきたセカンドステップの実践が低学年に広がってきました。これは小・中学校が連携した「勇気づけ（STEP）」の取組にもつながり、「適児適育」とも言えます。

園・小・中が協力してソーシャルスキルを手がかりにした関わりを広げることは、やがて当町が誇る中高一貫教育を充実することにもなり、新庄南高校金山校の末永い存続にも役立つものと思われまます。

学力向上への取組

これからの社会を生き抜くため、知識の習得に止まらずその活用力の向上をめざす全国学力・学習状況調査を踏まえ、各学校では学習内容を確実に身につける時間を特に設けたり、対話と協同の授業づくりですべての子どもの学びを保障する取組に力を入れています。更に各学年の重点的な学習内容について

は、県の「単元末評価シート」も活用してどの程度身につけているかを確かめています。町としても小学生の算数・数学検定を五年まで拡大、六・七級に各七人が合格、中学校でも漢字、数学、英語検定の準二級の各一名を含め三・五級に漢字四十四人、数学三十二人、英語五十人が合格しています。

また、同調査によれば、学力には学校の学習だけでなく、家庭での生活も大きく関わるということが明らかになってきており、町では今年度から数値では計ることのできない「非認知能力」も重視しています。ここで育まれるモラルやマナー、コミュニケーション能力などの社会性、粘りや我慢強さから生まれる耐性は、金山の子どもたちの人格形成をより確かなものにすると考えています。

いじめ防止対策

心配されているいじめ問題については、今年度「金山町いじめ防止基本方針」を策定しました。学校、教職員の責務・役割を明確にし、青少年育成町民会

議、PTA等の関係団体との協力、児童生徒自身の主体的な活動などで予防に努めるものですが、六月と一月には全校で児童生徒と保護者対象にアンケート調査を行い、早期発見にも取り組めます。各学校で力を入れていく読み聞かせや意見発表の機会も、道徳性や人権意識を高めるものと考えます。なお、ネット上のいじめにはスマホ、ゲーム機、SNSの利用について、保護者の皆様のご協力をお願いしているところです。

おわりに

今年度は、郷土を愛し、未来を切り開く人材育成をめざした第六次山形県教育振興計画がスタート、来年度は国の次期学習指導要領の全体像が示されます。このような新たな動きにも町内の教職員が十分に対応できるように、町教育研修センターの事業や山形大学等から専門家を招聘した研修に今後とも力を入れていきたいと考えます。

【文責】

教育指導主幹 梅津 広全